

だんぼ通信

愛称が決まりました「うめ*さろん」

太宰府市 NPO・ボランティア支援センターは、“皆さんに親しみを持ってもらえるセンター”、“気軽に利用しやすい雰囲気作り”を目指しています。

そこで、「名は体を表す」の思いで、センターに愛称をつけることにしました。太宰府らしさがあって、たくさんの方がつながりあえる場をイメージし、スタッフやコーディネーターでいろいろな案を出し合い、「うめ*さろん」に決定しました!!

「うめ*さろん」では、ボランティアや NPO に関する相談だけでなく、市民活動に必要な物品の貸し出しや、会議スペースの開放も行っております。のぞくだけでも構わないので、ぜひ一度「うめ*さろん」へ来てみませんか?

太宰府市 NPO・ボランティア支援センター「うめ*さろん」を、今年も一年、よろしくお願いいたします。



チャリティーイベントに参加してきました

12月23日(日) おおた歯科クリニック駐車場(太宰府市大佐野)にて『for ふくしま from ふくおか あったまるシェ』が開催されました。

みぞれまじりの雪が降る寒い日でしたが、テントの中では、フリーマーケットや産直野菜販売、手作りお菓子のチャリティー販売、蜜ろうキャンドル作りのワークショップがにぎやかに行われました。これらの収益金は、夏休みに福島の子供達に福岡に遊びに来てもらう企画の資金にあてられます。大きな鍋からは、東北名物の『芋煮』と『女川カレー』の湯気があがり、ほかほか温まりながら、食べては語り…福島に想いを込めて楽しみました。

福岡に住む私たちにも福島のためにできる支援として、とても楽しいイベントでした。



東日本大震災 もうすぐ2年

大槌町の今

平成24年11月6日岩手県大槌町の朝を迎えた。町役場をはじめ、1年8ヶ月前に被災した建物が津波で破壊されたままの状態。防潮堤も当時のまま、満潮のときは海岸線の道路は冠水し車は通れない。鉄橋は橋げただけ。あたり一面は住宅の基礎のみを残し何もない。まるで時間が止まっているようだ。

私たちは、生活支援相談員の応援で現地に入った。22名のスタッフが48の仮設団地（住宅戸数2106戸・入居者数4665人）や在宅避難者の住宅を3班に分け活動。施設を訪問し、声をかけ、健康や精神状態を確認しながら相談を受け、見守りが続く。また集会所を利用し「お茶っこ」を開き、四方山談義に花を咲かせる。「福岡から来ました」と言うと「遠い所ありがとう」と大歓迎され、さら



に盛り上がる。仲間が集まりいろいろな小物を販売し、細々と生活の糧を得ている。町の復興の姿は見えないが、人々の生活を目の当たりに見て着実に復興への道を一步ずつ歩んでいることを肌で感じた。しかし、まだまだ多くの課題を抱えている。

今回のボランティアを体験し災害に対する問題点や教訓を得ることが出来た。また、災害が起こる前の危機管理、自助・共助の大切さを実感した。

最後に根気強く被災者に寄り添う支援相談員の方々の活動にエールを送り一週間の支援活動の報告とする。

防犯ボランティアネットワーク会員

日本防災士会会員 防災士 原田 久美子

センター通信が「だんぼ通信」へ スタッフブログが「うめらぼ」へ変わりました！

支援センターの愛称「うめ＊さろん」命名と同時に、センター通信と、スタッフブログの名前も、親しみを持って読んでいただけるようにとの思いを込めて、一新しました！ もちろん、内容も充実してまいりますので、どうぞご期待下さい！

なお、当センターのキャラクター・ロゴのアイディアを募集中です♡
皆さまからのたくさんのご応募を、お待ちしております。

セラピューティック・ケアのボランティアに参加して

今回、大学の授業の一環として、NPO法人でのボランティアの参加にあたり、日本セラピューティック・ケア協会の方にお世話になりました。

初めは、人に触れることや人から触られることに戸惑いもありましたが、手当をする側もされる側も心が安らぎ、人間の手が他の誰かの心に与える影響を強く実感しました。

次に、実際に特別養護老人ホームへ出向き、高齢者の方々へセラピューティック・ケアを行いました。どの利用者さんも温かく私を受け入れて下さり、楽しくコミュニケーションをとる事ができましたが、利用者さんの1人になかなか顔を向けて下さらない方がおられました。それでも、丁寧に心を込めて手当てを行うと、終わった時に目を合わせてほほ笑んでくださいました。この場面が今回のボランティアで一番印象深く、嬉しかった出来事でした。実際に施術者として利用者の方々と関わり、改めてセラピューティック・ケアの持つ素晴らしさや、人の手の温もりが持つ癒しの力を実感することができました。

セラピューティック・ケアは、用具もいらず、短時間で誰でも簡単に行えるにもかかわらず、人と人との間に温もりや癒しを与えられるものでした。これから、この経験を自分の日常にも活かしていきたいと思います。



福岡医療福祉大学 M・M

講座のご案内

日時	場所	講座名	講師など	参加費
2/9(土) 14:00~16:00	206・ 207号室	カウンセリング基礎講座 「まとめ(フィードバック実習)」	吉田 久美子	100円
3/10(日) 13:00~16:00	208号室	ライフサポートあんしん講座 「成年後見制度と福祉」	行政書士 藤林 睦紀	無料

申し込み・問い合わせは「太宰府市NPO・ボランティア支援センター うめ✿さろん」まで
太宰府市五条3丁目1番1号 いきいき情報センター 1階
平日 10:00~18:00 土曜日 12:00~18:00
(休業日 毎週日曜日、祝日、毎月最終水曜日、

8月13日~15日、12月28日~1月4日)

電話 092-918-3633 ファックス 092-918-3644

E-mail dazaifu-volusen@wish.ocn.ne.jp

HP <http://dazaifu-volusen.sakura.ne.jp/>



団体紹介

市民音楽祭実行委員会

平成24年12月9日に、太宰府市政施行30周年記念事業として、太宰府市民音楽祭実行委員会で、**太宰府市民音楽祭**を行いました。

この音楽祭のコンセプトは、「ださいふ五弁の調べ・歌い継いでいきたい大宰府の歌・ふるさと音楽史を描く」というものでした。長い歴史のある太宰府で、歌い継がれてきた歌を発掘、調査、記録し、地域文化の柱として、次の世代に引き継ぎたい…と願って企画しました。

音楽祭当日は、半年がかりで取材を重ねてきた、五弁の調べのイメージビデオを初めに流しました。オープニングは市民遺産「万葉集つくし歌壇」より、遠の朝廷大宰府万葉の心を歌い、引き続き、福岡県指定無形文化財・竹の曲、天神様の詩吟、岩崎記代子氏の太宰府組曲、今回結成された市民音楽祭合唱団と子どもたちのコラボ、水城で古くから歌い継がれてきた歌、太宰府をテーマにした合唱組曲、太宰府音頭、マンドリンオーケストラの「失われた都」、最後

はみんなで、ふるさとを歌って、音楽祭を終わりました。出演者、来場者で千人を超える市政30周年企画になりました。

今年から名称を実行委員会から協会に変更して、引き続き太宰府に伝わる歌を歌っていきます。

芦刈 茂



練習風景

